

**K-2：11月9日（土）（13：45～14：45）**

<p><b>タイトル</b></p>	<p><b>東京駅丸の内駅舎保存・復原への軌跡</b></p> <p>～ これまでの100年を、これからの100年へ ～</p>
<p><b>講演者</b></p>	<p>東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 千葉開発プロジェクト グループリーダー</p> <p><b>大内田 史郎（おおうちだ しろう） 氏</b></p>
<p><b>講師紹介</b></p> 	<p>1974年9月静岡県生まれ。1999年4月東日本旅客鉄道㈱入社後、長野支社での勤務を経て、2001年4月から東京駅丸の内駅舎保存・復原の担当となる。それから2012年10月の完成に至るまで11年半に渡って本プロジェクトに携わり、現在は千葉駅のプロジェクトを担当中である。</p> <p>また、保存・復原するために必要とされた創建時の丸の内駅舎のデザインやディテールなどを調べ、2006年2月に『東京駅丸の内本屋の意匠と技術に関する建築史的研究』にて東京大学大学院で博士（工学）の学位を取得したほか、丸の内駅舎の設計者である辰野金吾の作品をはじめとした近代建築史を研究している。</p> <p>【最近の主な講演】</p> <p>2012年10月：東京駅丸の内駅舎保存・復原工事完成記念連続講演会（有楽町朝日ホール） 2012年12月：青山学院大学総合文化政策学会講演会（青山学院大学総合研究所） 2013年3月：鉄道建築協会設立60周年記念講演会（TEPIA） 2013年6月：明治塾 講師（明治村） 2013年6月：神奈川県立川崎図書館ミニ展示関連企画・パブリックディスカッション（川崎図書館）</p>
<p><b>概要</b></p>	<p>1914（大正3）年12月に創建された東京駅丸の内駅舎は、1945（昭和20）年5月の東京大空襲の被害を受け、その姿を大きく変えていましたが、2007（平成19）年5月に着工した保存・復原工事によって2012（平成24）年10月にグランドオープンを迎え、その雄姿を取り戻しました。</p> <p>この工事は、伝統的技法を駆使して駅舎の外観やドーム内観を忠実に再現しただけでなく、現代の最先端の技術によって、駅として使いながら全長約330m・重量約7万トンという長大な駅舎を免震化するという、新旧の技術が融合した他に類を見ないものでした。</p> <p>本講演では、丸の内駅舎の歴史と変遷に始まり、保存・復原工事の概要やポイント、完成後の見所などの説明など、プロジェクトの全貌のほか、その推進にあたっての課題の解決方法や現場での実際のマネジメントに関してご紹介いただきます。</p>